西洋なし

1 調査基準 (1) 樹性、樹体生育

			調査		最小	析
項目	調	ランク	方法	単位	調査	平均
樹齢	接木後またはは種(実生)後の生育シーズンの数	A	計数	年	1	1
樹数	調査した樹の本数	A	計数	本	1	1
樹勢	新しょう伸張の強弱	A	観察			
	弱や弱中や強強					
樹姿	枝の発生角度及び伸長方向から判定	В	観察			
	直立 や直立 中 や開張 開張					
幹周	接木部の上部10cm(実生の場合は地上20cm)の	A	測定	cm	0.5	0.1
	幹の周囲の長さ。ただし、分岐枝、こぶなどがある					
	場合は避けた直近上部					
樹高	地面から樹の最高部までの高さ	A	測定	m	0.1	0.1
樹幅	樹の広がりが最も広い部分の枝先から枝先までの長	A	測定	m	0.1	0.1
	さ。 列間方向と樹間方向を測定					
枝の発生密度	新しょう発生数の多少	В	観察			
	少 や少 中 や多 多					

(2) 生態

				調査		最小	析
項	目	調査基準	ランク	方法	単位	調査	平均
発芽期		新しょう先端で鱗片が開き、葉の緑色が見え始めた	В	観察	月日	1	1
		芽が2~3認められた日					
展葉期		正しい葉形と認められる葉が2~3枚展開してきた	С	観察	月日	1	1
		日					
	開花始	20~30%開花した日	В	観察	月日	1	1
開花期	開花盛	70~80%開花した日	A	観察	月日	1	1
	開花終	20~30%花弁が散った日	В	観察	月日	1	1
	収穫始	適熟果の最初の収穫日	В	観察	月日	1	1
収穫期	収穫盛	適熟果の過半が収穫された日	A	観察	月日	1	1
	収穫終	適熟果の最後の収穫日	В	観察	月日	1	1

(3) 結実性、収量

							調査		最小	桁
項目	調	査	基	準	ラン	ンク	方法	単位	調査	平均
短果枝の着生	短果枝の着生の	多少及び	その維持状	:況	В	3	観察			
	少 や少 中	・や多	多							
えき花芽の着生	6月下旬~7月	上旬に伸	張停止した	た新しょうの	りえき C)	観察			
	花芽の着生状況	1								
	少 や少 中	・や多	多							
結実性	開花盛期1か月	後の結実	伏況を観察	ξ	A	1	観察			
	少 や少 中	中多	多							
早期落果	不受精果落下後	の生理的液	答果		C		観察			
	無微少	中 多								
後期落果	収穫期間際又は	収穫期間	中の生理的	了落果	A	1	観察			
	無微少	中 多								
収穫果重	収穫した健全界	全体の重	量		Α	7	測定	kg	0.1	0.1
平均一果重	健全果全体の平	均重			A		測定	g	1	1

(4) 果実特性、果実品質

							調査		最月	卜桁
項	目	調	查	基	準	ランク	方法	単位	調査	平均
収穫月日	1	調査果実の収	穫月日			A		月日		
調査月日	1	果実を調査し	た月日			Α		月日		
果重		調査した果実	の平均重			Α	測定	g	1	1
玉揃い		大きさと果形	の斉一度			Α	観察			
		不良 や不	良中や	良良						
果形		成熟果の平均	的果形			A	観察			

1	- 扁田 田 短だ田 だ田 ビン形 田錐など					ĺ
果面の地色	果実表面のさび、着色のない部分の色 緑 淡緑 淡緑黄 緑黄 淡黄 黄	A	観察			
果面のさび	一級 - 依線 - 依然	В	観察			
位置	梗あ 胴 蒂あ 梗あ~胴 全面	D	150.71			
量	無微少中多					
裂果	無袋果の裂果の発生状況	C	観察			
用力存在	無微少中多					
果肉硬度	果実縦断面、赤道部をイタリア・ITALTEST社製果実硬度計 (0~27ポンド用、頭針5/16インチ)で1果2か所剥皮して					
	1 樹 1 0 果測定					
収穫時	1個10水锅是	Α	測定	1bs	0. 1	0. 1
追熟時		A	測定	lbs	0. 1	0. 1
果肉	適熟果の果肉の食味					
粗密	粗や粗中や密密	A	食味			
性状	粉状 粒状 溶状 バター状 粘質	A	食味			
ヨードカリ反応	ヨウ素・ヨードカリ液を果実の横断面に塗布して1					
	5分後に染色度合を5段階に分け指数で評価(山形					
	県セイヨウナシ調査方法による) 1:10%以下、2:30%程度、3:50%程度、4:80%程度、5:100					
	1.10%从下、2.30%性及、3.30%性及、4.30%性及、3.100%					
果汁糖度	** 果肉硬度測定に用いた果実を果実の大きさに応じて	Α	測定	%	0. 1	0. 1
711111111111111111111111111111111111111	1/10~1/20の一定の角度の縦断果肉片とし、		0.47	, -		
	果皮、果芯を取り除き、一括してジューサー等で搾					
	汁した果汁を糖度計で測定					
果汁酸度	糖度測定に用いた果汁を滴定し、リンゴ酸に換算	A	測定	g	0.01	0.1
渋味	適熟果の食味	С	食味			
エ た	無微少中多	D	△ n+			
香気	完熟果または多少過熟となった果実の食味 無微少中多	В	食味			
追熟日数	収穫してから可食適期に達するまでに要する日数	Α	測定	B	1	1
追熟判定の難易	果皮の色、香気などから追熟完了	A	観察			-
	難や難中や易易					
日持ち性	完熟果が常温で品質を保持する日数。早生、中生は	A	測定	目	1	1
	収穫後5、7、10日の食味で商品性を判定する。					
	晩生種は14、28日後、以後は1か月ごとに食味、					
	外観を調査					

(5) 果実生理障害、耐病性等

			細木		□	ν-:
+# H	=== * + ₩:	\ . h	調査	224 /-	最小	
項目	調査基準	ランク	方法	単位	調査	平均
心ぐされ	日持性検定期間中に発生する心ぐされ	A	観察			
	無微少中多					
蜜症状	過熟果の収穫時の発生程度	В	観察			
	無 微 少 中 多					
硬化障害	ユズ肌または石ナシ	C	観察			
	無 微 少 中 多					
黒斑病抵抗性	通常のナシ防除基準のもとで無袋幼果の病斑発生状	С	観察			
	況によって判断					
	弱や弱中や強強					
黒星病抵抗性	同上の条件下で、6月下旬の葉のり病程度より判断	В	観察			
	弱や弱中や強強					
葉炭そ病	同上の条件下で、6月下旬の葉のり病程度より判断	С	観察			
	弱や弱中や強強					
胴枯病	枝幹部のり病程度から判断	С	観察			
	弱や弱中や強強					
耐虫性	特に記載することがあれば害虫名を記載	С	観察			
	弱や弱中や強強					
耐寒性 (寒害等)	冬期間に発生する生理障害 2月中旬以降に観察	В	観察			
	弱や弱中や強強					
特記事項	調査項目以外で特に気がついた事項を記載	С				
評定	総合的に評価し、判定	A				
, =	◎:優良、○:有望、△:不明、×:見込みなし	=				

2 とりまとめ様式(西洋なし)

No 品種名	樹 齢 樹 数 (年生)	樹勢樹姿	幹 周 樹 高 (cm) (cm)	樹 幅 枝 0	技の
1 2 3 4					

				開花期(月日)			収	穫期 (月	日)		後	期	収穫	平均
No	品	種	名							結実性			果 重	一果重
				開花始	開花盛	開花終	収穫始	収穫盛	収穫終		落	果	(kg)	(g)
1														
2														
3														
4														

				収	穫	調	査	調	査				果正	面の	果面の	さび	果肉硬度	(1bs)
No	品	種	名	月	日	月	日	果 (g)	重	玉揃い	果	形	地	色	位置	量	収穫時	追熟時
1															,			
2																		
3																		
4																		

No	品	種	名	粗	肉密	質性	状	ヨカ反	ドリ応	果 汁 糖 度 (BX)	果汁酸 度 (g/ 100ml)	香	気	追日	熟数	日 ち 性 (日)	心さ	ぐれ	輪病抗	紋抵性
1 2 3 4																				

No 品種名	黒 星 病害虫、障害など 病 抵 抗 性	特記事項	評 定
1 2 3 4			